



# 国際的なパートナーシップ構築に取り組む 全米知事会 NGA (National Governors Association) ～鳥取県平井知事も参加した冬季総会

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 上席調査役 福富 茂 (総務省派遣)

## 全米知事会とは

全米知事会は、1908年に第26代大統領セオドア・ルーズベルトが、自然保護について議論するために、全米の知事を招集して会議を開催したことを契機として設立されました。党派を超え、州の自治を促進すること、先進・優良事例を共有すること、連邦政府の政策形成・実行に働きかけを行い、州の抱える課題を解決することをその目的としています。

二大政党（共和党、民主党）から1年ごとに交代で選出される会長、副会長らで構成する執行委員会以下、経済および商業、教育および労働などの各政策部会、各州共同のシンクタンクであるベストプラクティス（優良事例）センターなどの組織が設置され、それぞれ各州知事が責任者に任じられています。

全米知事会では、州知事が「大使」として国際的な貿易、投資の発展に貢献できるとの考えのもと、2015年にはメキシコやカナダの知事と北米サミットを開催するなど、国際的なパートナーシップの構築を進めています。事務局にNGA Globalという担当が設けられ、2018年からはこれまで以上に、州レベルのトップ、各界の世界的権威などを含めた海外のカウンターパートを全米知事会に招き、協力する機会をつくっていくこととしています。



開会式で紹介を受ける平井知事

## 全米知事会冬季総会 ～鳥取県平井知事が参加

この方針の一環として、2月23日から26日まで開催された全米知事会冬季総会に日本の全国知事会から鳥取県平井伸治知事が招待されました。

全米知事会は、年2回、夏と冬に総会を開催し、会の方針などについて意思決定を行うとともに、各州の抱える諸課題に関する意見交換などを行っており、例年2月にワシントンDCで開催される冬季総会では、主に州・連邦政府間の課題に焦点を当てた議論が行われます。

今回の冬季総会もオピオイド（鎮痛剤）乱用の問題、労働力開発など喫緊の課題について議論が行われましたが、加えて、オーストラリアのマルコム・ターンブル首相やガーナ共和国のナナ・アクフォ＝アド大統領が講演されるなど、非常に国際色が豊かな会議となりました。

平井知事は、カナダ、メキシコの知事やドイツ、スイス、デンマークなどの大使、政府関係者とともに、サブナショナル（地方レベル）のリーダーの役割について議論する国際セッションに参加され、さらに、ネバダ州サンドバル知事（NGA会長）やモンタナ州ブロック知事（同副会長）と会談され、今年の8月下旬に東京において日米知事フォーラムを開催することで合意しました。国際色の強かった今回のNGA総会は、日米間においても、サブナショナルなレベルでの関係を深化させる機会となりました。



国際セッションの様子